The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	特集にあたって
Author(s)	安岡, 健一
Citation	日本学報. 2020, 39, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/85162
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【特集】

特集にあたって

安岡　健一

日本学方法論の会では，毎年ゲストをお招きして，研究報告や研究に関わるお話を聞き，討論することを通じて，今後の研究教育の推進・発展につなげることを目指している。2019年度は，日本学の大学院で学位を取得した謝花直美さんに講演をお願いした。謝花さんは沖縄タイムス記者として勤務しながら大学院に籍をおき，2012年度に『復興と親善が生みだす占領空間の反響』という論文で博士前期課程を修了，その後，2017年度に『復興都市の異音－沖縄占領下，「流動する生活圏」』という論文で博士学位を取得された。もともと，大学院に入学する前に，すでに『戦場の童―沖縄戦の孤児たち』（沖縄タイムス社，2005年）や，『証言　沖縄「集団自決」―慶良間諸島で何が起きたか』（岩波書店，2008年）という単著を刊行され，これら以外にも共著でも複数の業績を精力的に発表してこられた。

今回は，博士論文をベースにした書籍（近刊予定）にむけての研究報告であると同時に，謝花さんのこれまでのお仕事と研究とにまたがるようなお話を聞くことができたらと思う。沖縄という現場で働き，研究してきた営みからは，大学院改革で論議されている多様な研究のあり方を構想するうえでも大きな示唆を得られるだろう。今回の企画に際しては，もともと教員の北原恵さんが謝花さん招へいを準備していたが，上記の理由から方法論の会として改めて位置づけることをお許しいただいた。記して感謝したい。